

作業療法は、自律的なヘルスケア専門職である。OT サービスは資格のある作業療法士によってのみ行われる。多くの作業療法士は、世界作業療法士連盟(WFOT)が直接認可した教育プログラムを卒業している。作業療法教育は、自国の作業療法専門職組織の賛成を通して認可されたプログラムでもある。この組織は、WFOT の作業療法士教育の最低基準(2002)に適合しており、卒業生は要求される能力にみあっていることを確実にするという責任を担っている。教育プログラムの認可について責任をもっている外部組織をもつ国もあり、そこでは WFOT と同等かそれ以上の評価プロセスについての国の作業療法教育基準を使っている。

作業療法専門職は、学際的な健康、社会、リハビリテーションチームの対等な構成員であり、患者やクライアントに提供するサービスプログラムを計画する際意思決定に対して、作業遂行という独自の視点で貢献するものである。作業療法士は患者やクライアントを評価するための作業療法プロセスを使い、作業遂行の問題を特定する際には患者やクライアントと協働し、介入(治療)目標と方法の設定、成果の評価に、患者やクライアントがしっかり関わるようにする。作業療法士は、多様な施設や地域に根差したサービスの場面で働く。

どこの国においても作業療法の明確な主張は、国の基本となる作業療法組織の質の高いリーダーシップとなるものである。この国内の集団は多くの形態をとり、専門職集団に関連するその国の法律や基準により決められる。適切な組織のレベル(国、集、県や地区あるいは規則による集団)による専門職は、作業療法専門職が有能で、受け入れ可能な行動や倫理の綱領の範囲に入り、すべての実践において責任があり有能な行動を示すという点で専門職の価値観を具現化するものである。教育や実践の専門職基準について自国の作業療法組織あるいは(行政区レベルのような)同等の権威をもつ組織がない場所では、WFOT のものを適用する。

作業療法専門職は、他専門職を尊重し、同僚としての関係を保ちながら、生涯を通して専門職として学習し、有能で、倫理的で、エビデンスに基づいた実践をする。

この文書は、2006年シドニーでの WFOT 会議で、2007年4月に改定された。